

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 All-on-4 コンセプトによるインプラント支持ブリッジを
インプラント支持オーバーデンチャーへ変更した症例

演者名 田中 俊憲

日 付 2008年5月27日

keywords

1. All-on-4 コンセプト
2. オーバーデンチャー
3. インフォームドコンセント

抄 録

Malo によって提唱された All-on-4 コンセプトは高度顎堤吸収無歯顎症例に対し早期の機能回復を可能としてきた。しかしながら、そのような症例に固定性上部構造を選択することで問題が生じることがあり、その場合インプラント支持オーバーデンチャーを選択することで解決できる場合がある。

今回、他院にて All-on-4 コンセプトによる固定性ブリッジを装着したが、諸問題によりインプラント支持オーバーデンチャーへ上部構造を変更して良好な経過を得ている症例を経験したので報告する。

患者は 62 歳、女性。初診は 2006 年 3 月 27 日、主訴は審美および咀嚼障害であった。2005 年 6 月に他院にて抜歯即時インプラントを施行してプロビジョナルブリッジを装着した。術直後より左口唇の知覚麻痺がみられ、その後も清掃困難、審美および咀嚼障害を訴えていたが改善がみられなかったため当院受診となった。

患者の希望は第 2 大臼歯までしっかり噛みたいとのことであったため、左右遠心に追加インプラントを植立してボーンアンカーブリッジによる補綴を行うことを勧めるも同意が得られなかった。さらに審美障害および清掃困難も改善したいとのことであったため、可撤式のインプラント支持オーバーデンチャーについて説明したところ同意が得られたため、上部構造の変更を行うこととした。

現在上部構造装着後 2 年が経過しているが、患者の満足度は十分である。さらに残存歯周組織、インプラント周囲組織に炎症所見は見られず安定している。今後も経過を慎重に観察していきたい。

諸先生方のご指導よろしく申し上げます。